

小児科この一年

小児科医長 矢野 公一

診療体制

平成13年1月から4月までは前年から引き続き瀧本副院長、矢野医長、片野医員、佐々木彰医員の4人体制で診療にあたりました。5月から佐々木医員は利尻国保病院に赴任しました。後任として杉本医員が5月から9月まで、10月からは引地医員が着任いたしました。佐々木先生はすっかり島の生活に溶け込んでいるようです。杉本先生は、なんとといってもニューヨーク・テロ事件のときにハワイで結婚式を挙げ、空港で何日も足止めを食ったことが思い出されます。

一般外来は、毎日午前・午後とも2診体制で行い、込み合うときは3診としています。瀧本・矢野・片野・佐々木彰/杉本が担当しました。午後は予防接種、1ヶ月検診も行っております。専門外来は、旭川医大小児科より出張していただき、神経外来（沖助教授、宮本講師）、内分泌外来（伊藤助手）、心臓外来（津田助手）を1～3ヶ月に1回程度行っています。病棟診療は、主に片野・佐々木彰/杉本/引地が担当しました。院外業務は、乳幼児検診を瀧本・矢野、中川町のサテライト診療を瀧本が担当しました。また、年始には休日外来を行いました。

外 来

外来患者数は、平成13年12月累計で一日平均114人であり前年111人とほぼ同等の患者数であります。今年の特記すべき点は麻疹の流行であります。ほとんどの麻疹罹患者はワクチン未接種であり、予防接種を徹底させることの重要性を改めて知らされました。

また、夕方や救急外来の受診が多く、看護部・検査部・医事科などにご迷惑をかけております。さらには他科受診での治療をお願いする例も多く、皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

病 棟

平成13年の入院患者数はのべ938人（一般小児819人、新生児119人）でありました。このうち市内在住患者が一般小児は543人（66%）、新生児は60人（50%）と市外からの患者が多くみられました。一般小児のうち肺炎133人、胃腸炎80人、扁桃炎67人、気管支炎59人、気管支喘息59人、麻疹54人の順でありました。新生児では、低出生体重児は32人、呼吸障害が15名でありました。特記すべきは、麻疹の入院が54人であった点ではありますが、幸い一例も合併症なく退院できました。小児科は、新生児室を含め15床のベッドでやりくりしており、平成13年は特に麻疹流行時期は満床が続き他科の病棟のベッドを借りてしのぎました。工藤婦長はじめ各科のスタッフの方々に御礼申し上げます。また、年間400名以上の分娩があり、入院扱いにはならない健康新生児の診察にも力を注いでおります。設備関係では新生児モニターが更新され、見やすい表示で新生児の病状の観察に有効に使わせていただいております。

カンファレンスなど

産婦人科とのハイリスク妊娠カンファレンスを月1回行っています。また市立土別総合病院小児科と合同の抄読会を毎月行っております。

研 究 活 動

学会活動としては、12演題を全国学会あるいは地方会で発表しました。また、瀧本副院長が市民公開講座で「小児感染症」について市民の方々に対象に講演を行いました。論文は7報発表しました。

ま と め

少子高齢化の時代の波の中で、あすの日本を担っていく子供達が健康に育っていけるように医療の面から貢献していきたいと思っております。